

第4章 不登校児童生徒及び保護者へのヒアリング調査

1. 調査概要

(1)調査目的

- ・ 児童生徒向け・保護者向けアンケート調査で聴取された内容について、より詳細に状況や考えを把握するために、ヒアリング調査を実施した。

(2)調査対象

- ・ 児童生徒向け・保護者向けそれぞれのアンケート調査の回答者の中から、ヒアリング調査への協力が得られた方を対象とした。
- ・ 県内の各教育事務所の管轄地域にヒアリング対象者が存在するよう、地域バランスに留意して対象を抽出した。
- ・ 北総教育事務所（保護者4名、児童生徒4名）、東葛飾教育事務所（保護者5名、児童生徒4名）、東上総教育事務所（保護者3名、児童生徒1名）、千葉市教育委員会（保護者3名、児童生徒2名）、葛南教育事務所（保護者6名、児童生徒3名）、南房総教育事務所（保護者3名）の保護者計24名、児童生徒計14名に実施した。

(3)調査期間

- ・ 令和6年2月～3月にかけて随時実施した。

(4)調査方法

- ・ 各教育事務所での対面ヒアリングを基本としつつ、ヒアリング対象者の希望に応じてオンライン会議（zoom等のWEB会議）あるいは電話でも実施した。

2. 調査結果

ヒアリング調査で聴取された内容について、抜粋して以下に掲載する。

なお、ヒアリング調査にて聴取できた内容は極めて多いため、本報告書ではその中より一部抜粋し、同種の意見をまとめるなど発言の趣旨を変えない範囲で適宜編集して掲載している（特に、複数意見が寄せられたものや、特徴的なものを抜粋）。

また、下表を見ると分かる通り、同じ論点に対し真逆の意見が寄せられるなど、不登校児童生徒やその保護者のニーズは、それぞれの置かれた状況に応じて異なるとともに、非常に多様となっている。

図表 254 ヒアリング調査結果(児童生徒)

	児童・生徒からの意見
1. 学校を休もうと思った時のこと	<p>【いじめや悪口があった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスの一部の人からいじめや悪口を言われた。学校で相談できる人はいなかったので我慢していた。クラス替えの後、いじめっ子は違うクラスから自分のクラスに入ってきた。一部の友達心配してくれたが他の人は見て見ぬふりで、先生も気づいていてと思うけど、対応してくれず、我慢の限界になった。 ・ いじめっ子に注意してくれた先生もいたが、担任が変わり、新任で慣れていなかったせいか注意してくれず、いじめっ子の行動がますますひどくなった。 <p>【教職員の高圧的な態度・暴言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の先生がクラスの子を怒っている時の言い方が嫌で、その場面が今も記憶に残っている。 ・ 学校の先生はうるさいので好きではないが、同級生は嫌いな人はいなかった。学校に行きたくないことは、先生には言ってもどうしようもないので相談しなかった。 ・ 1年生の担任が暴言を言う、満点になるまで居残り学習を強いる人で、次第に登校しようとする体拒否反応が出るようになった。 ・ できないと社会で通用しない、大人になって困る、などと言われた。 <p>【教職員が理解してくれない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任には相談しても笑って流されているように感じた。周囲の人も先生に不満を持っており、その様子から自分も先生に対して嫌な気持ちを深めていった。 ・ 小さいころから大人数が苦手な人前では小さい声になってしまう。低学年の頃は先生からは何も言われなかったが、中学年になり先生の対応が怖くなった。担任の先生に分かってもらえないのが辛く、休むようになった。「いい加減にして」と言われたこともある。 <p>【授業が楽しくない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスの過半数が受験することもあり、学校の授業がつまらない、楽しくない、一つのことを時間をかけすぎ、と感じたりする。 <p>【周りの目が気になる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は楽しいが人目が気になり緊張してしまい気分が悪くなった。安心できると授業や発表も大丈夫だが、体育の発表や運動会などの苦手なものが辛かった。 ・ 人目が気になり、辛い思いをしながら学校に通っていたが、インフルエンザで学校を休んだ時、家にいて幸せでほっとして安心できた。それから学校へ行こうとすると吐いたり、朝、起きられなくなるようになった。 ・ コロナの休校の後から、学校に行けなくなった。学校で友達と話さないようにする「ソーシャルディスタンス」ルールが気になり、特に給食の時間が静かで金属音が嫌で気になり、学校に行くのが辛くなった。 <p>【体調が悪くなる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きっかけは特にないが、低学年の時、急に体が学校に行きたくないと感じ始めて、そこから少しずつ休み始めて今は全然行けなくなった。体調は頭痛、重くなる、お腹が痛くなる。 ・ 腹痛や病院に通うなどで早退が増え、次第に休むことが多くなった。 <p>【よく分からない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でもなぜか分からないが、体が動かない。自分を変なのではないかと悩んでいる。親から行けない理由をしつこく聞かれ、頑張っ学校に行ってみたがどうしても

	<p>続けられず、なぜなのか自分でも悩むようになった。</p>
<p>2. 学校を休んでいるときの暮らしのこと</p>	<p>■過ごし方</p> <p>【習い事をしている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習い事をしている。(サッカー、バスケ、バレー、トランポリン、習字、スイミング、英語、ピアノ、音楽団、個別指導塾) ・ 習い事でクラスの子と一緒にいるが話さない。 ・ 学校の隣にある習い事に行くため、担任の先生や校長先生、教頭先生と話をする。校長先生は優しく話しやすい。 <p>【ゲーム・SNS をしている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と遊ぶことはあまりしておらず、家でゲームやユーチューブを楽しむ。 ・ 毎日マイクラフトをしている。 ・ フリースクールの友達とオンラインでゲームをして遊んでいる。 ・ 同じ気持ちの子や学校に行けるようになるための方法を探すため、SNS(X や YouTube、TikTok)の投稿を見たりする。 <p>【家のことをしている、家でゆっくり過ごしている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親がいない時は留守番をしていることもある。 ・ 自分で作れる簡単な昼食を用意することもある。 ・ 絵を描くのが好きなので、家ではお絵描きをしている。 <p>【外に出かける・友達と遊ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母と出かけることもある。 ・ 家では、読書を朝 30 分、勉強を 1 時間やるなど親とルールを決めて過ごしている。父親にサーフィンに連れて行ってもらうこともある。 ・ 慣れている子や幼稚園の時からのお友達とは遊ぶことができる。 <p>■あった／利用した支援等</p> <p>【学校の先生が来た】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の先生から 2 週間に 1 回程度電話があり、直接様子を話す。学校に戻ってこないかとは言われない。 ・ 先生によって対応は様々で、異動があると関わり方が変わる。当初一生懸命関わってくださっていた先生が途中でトーンダウンすることもある。 <p>【専門職に相談した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクールカウンセラーに相談したが、何を相談したらよいか分からなかった。 ・ スクールカウンセラーに相談したが、本音が話しづらかった。 <p>【学校の教室以外の場所に行った】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校から案内され、校内適応指導教室(※発言ママ)を利用していたが、担任の先生からいつかはクラスに戻らないといけなかったと言われた。学校の中にあり、学校や学年もさまざまな人が来ており、楽しく過ごしていた。ただ、途中で信頼していた先生がいなくなり雰囲気が変わった。 ・ 教頭先生や生徒指導の先生も校内適応指導教室に来てくれるので良かった。 ・ 校内の不登校児童生徒専用の教室に行く。担任の先生がマンツーマンで教えてくれた授業が分かりやすく、授業を受けないのはもったいない。学校が悪いわけではないと思ったため、今は週 1 回行き、3 時間目から給食時間まで過ごしている。 <p>【学校外の団体・施設を利用した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月 2 回学校外の居場所に通っている。話したりゲームをしたりする。 ・ 民間フリースクールに行く。みんな優しく自分のペースで過ごせ、学校の出席にもなる。自分で持参したものを勉強する。イベントは緊張するので出席していない。 ・ 先生から教えてもらい、車で 1 時間くらいの民間のフリースクールへ行ったが、活発な人が多く、雰囲気が合わないと思いやめた。 ・ 地域の人々の憩いのスペース・居場所に行った。 <p>【オンライン支援を利用した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインスペースに参加する。メンターが企画やオフ会のサポートをしてくれるほか、相談室でなんでも相談できる。
<p>3. ICT について</p>	<p>【実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家で Chromebook を使いリモートで勉強していた。Google クラウドで連絡も取っている。先生も文字を打ち込みコメントをできるようになっている。ロイノート、Google Meet、宿題の進捗等を確認する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットは、大事なお知らせを見たり、クラスラインに乗せられている情報をみたり、情報共有としては使っている。 ・ ベネッセのチャレンジのタブレットをしたり、学校からもらったパソコンでオンライン授業や配信を観ている。 <p>【ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインで学校の授業を垂れ流されても面白くないし、いじめっ子や嫌な先生とか友達とかは映らない方がよい。 ・ 授業の録画や Teams で授業を同時配信し、オンライン参加するようなものがあればよいと思う。定点カメラで教室にいるような雰囲気のある授業の方がよいと思う。
<p>4. 必要な相談、支援等について</p>	<p>■こんな場所、場所が良い</p> <p>【自分のペースで勉強したり過ごしたりできる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強等、時間や内容を自分で好きなようにできる場所があったらいいと思う。 ・ 自分のペースで過ごせるとよい。体調が悪かったら帰ってもよい、1 時間だけでもよい、苦手な授業があれば参加しなくてもよい、体育も見学してよい、自分のペースで宿題もできるなど。 <p>【少人数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人数が少ないと仲良くなれるので 10 名ぐらいの規模で、分かってくれる人がいるところがいい。上下関係がなく、年齢が違っていてもいい。 <p>【体を動かしたい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインもいいが、オフラインで実際に体を動かすのはいい。 <p>【在籍校以外の居場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家の近くにフリースクールがあるとよい。 ・ 不登校特例校であってもよいと思うが、学校復帰したい子がいるような中間的な学校が必要だと思う。 <p>■こんなことがしたい</p> <p>【面白いプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ものづくりが好きなのでたくさん材料があって好きなものがつくれるようなところがあればよい。 ・ カードゲームなどで、遊びながら学べるような仕組みがもっとあったらよいと思う。 <p>■こんな人がいると良い</p> <p>【こんな人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絶対に学校へ行くことが一つの道ではなくて色々な人を受け入れてくれるような先生がよい。 ・ 否定しない人、怒ったり怒鳴ったりしない人。 ・ 勉強を教えてくれる人、一緒に遊んでくれる人、相談できる人、安心できる、話しやすい人が周りにいてほしい。 ・ 保健室の先生のような人で、カウンセリングもできる心理資格を持っている管理者がいてほしい。 <p>【相談の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メールで相談できると良い。まずはメールなどでやり取りし、仲を深めてからからの方が対面では相談しやすい。 ・ 直接会った方が、気持ちが伝わりやすいと思うので、相談は直接会って話したい。 <p>■その他</p> <p>【分離しすぎない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 別室登校により分離することによって、かえっていじめの対象になったりしている。学校に行きづらい子だけでなく、区別なく誰でも行ける場所があったらよいと思う。 <p>【無理に連れ戻さない・不登校を責めない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員室の隣に相談室があり、人の行き来も多くて行きにくい。ドアが開けられていることがあることも気になる。友達に無理やり呼び戻されて戻るようなことも嫌だ。 ・ なぜ来なくなったのかと聞くのはやめてほしい。
<p>5. その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休みや給食の時間が短い。 ・ 先生と合わなければ変えられるような仕組みがほしい。

図表 255 ヒアリング調査結果(保護者)

	保護者からの意見
<p>1. お子さんのことについて</p>	<p>■本人の特性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 断言できないが自閉傾向は強いと診断されている。先生方は発達特性についてあまり理解がなく、どうしたらよいか分からないように感じた。 ・ 発達障害で多動・多弁が強い。通常級で先生が対応することは難しい。 ・ 長時間の集中が難しく、好きなことは集中できるが、それ以外は難しい。 ・ 家では話すが、小さいころから引っ込み思案で場面緘黙症傾向がある。 ・ 聴覚過敏で苦手な音の種類がある(金属音・チャイムの音・友人の大きな声)。 ・ HSC(Highly Sensitive Child)と診断されている。 ・ 性格が繊細で、周りの子供の様子を過度に気にし、疲弊してしまう。 ・ ASD(自閉症スペクトラム障害)傾向があり、頑張りすぎて体調を崩してしまう。 ・ 特定の分野に苦手傾向がある(板書、絵や字を書くこと、掛け算、細かい作業、体育の授業、発表)。 ・ ルールが増えること、急遽変わること、理解できないルールがあることなどに対応できない。 ・ 起立性調節障害、過敏性腸症候群の診断を受けている。 <p>■学校を休むようになったきっかけ</p> <p>【友達からのいじめやからかいがあった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同級生に意地悪なことをされたり、ショックなことを言われたりした。 <p>【友達関係で不安や困りごとがあった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達関係で悩みがあったり気を遣ったりしていた(関係づくりが苦手で悩んでいた、仲良しの友人と喧嘩をした、松葉杖で登校すると迷惑だと思った)。 <p>【教職員が怖かった、合わなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の先生、もしくは支援学級の先生に恐怖を感じる行動があり(怒り方が怖い、教室に鍵をかけて入れないようにする、ランドセルを投げる、給食を残してはいけない、残すと怒る、居残り学習を無理やりさせる)、登校しようとするとう体調を崩すようになった。 <p>【教職員が助けてくれなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達とのトラブルがあった際に先生が適切な対応をしてくれず、子供にとって安心安全な環境ではなくなった。 <p>【特性に関連した強いストレスがあった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題一つをやっていないとパニックになった、どもりがあり発表を負担に感じるようになった、周りに気を遣いすぎて体調を崩すようになった、集団で決められたことをやる学校の体制を窮屈に感じた、コロナで有名人が亡くなることに不安を感じ外に出られなくなった等。 <p>【勉強に苦手意識が出た】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強が苦手で辛くなった。 ・ 学校を休みがちなことにより勉強が遅れて、次第に追いつけなくなった。 <p>【無理をさせて行けなくなった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体調が悪い場合、親に連絡してもらえよう伝えていたが、連絡はなく、保健室から教室に戻され、学校で吐くことがあった。 ・ 不登校になりかけていた頃、無理にでも連れ出した方が良いという学校の方針で、パジャマ姿で泣きながら連れ出されることがあり、完全に不登校になった。 <p>■休んでいる間の過ごし方</p> <p>【習い事をしている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習い事に週 2 回通っている。 <p>【出かけたり遊んだりする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族と買い物に出かけたり、スポーツをしたりしている ・ 少数の仲の良いお友達と遊ぶ。 ・ よく一緒に外出し、カラオケ、ごみ拾いなど体験させ、勉強も家庭で教えているが限界があり悩んでいる。 <p>【学校外の居場所等に行く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後デイサービスに楽しく通っている。 ・ 教育支援センターに毎日楽しく通っている。学校に登校していた頃は反動的であっ

	<p>たが、行かなくなって落ち着いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フリースクールに週 1 回、学校には放課後週 1 回通っている。 <p>【可能な範囲で学校に行く／教職員と関わる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生と仲良くなってからタッチ登校をしている。 ・ サッカーW 杯を見てサッカーに熱中するようになり、体育の授業があるときは登校している。 ・ 現在は週 1 回習い事の前に、先生とお手紙を渡すコミュニケーションを取っている。 ・ 不登校の友人と一緒に、月に 1-2 回放課後登校もしていたが、課外活動をする友達と会うことが嫌な様子である。友達が寄ってきてくれることを負担に感じる。 <p>【家で過ごしている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家では公文やベネッセの教材、ゲームなどで過ごしていると思われる。 ・ 両親共働きのため家に一人でおり、インターネットやゲームへの依存を心配している。 <p>■休んでいる間の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校になった当初は、落ち込み、学校へ行けない自分を責め、夜は眠れなかったり、夜泣きをした。学校の時間に外に出られず、引きこもりがちだった。子供の好きなことをやらせるようにしていたらだんだん明るくなってきて、「嫌だ」「行きたくない」と言えるようになってきた。 ・ いつも考えており、落ち込み、不眠といった鬱症状があり、心療内科に通院している。薬忘れで服薬ができなかった時期の後、自殺未遂症状や「自分は消えた方がいい」ということがあり、今も服薬している。
<p>2. お子さんとの関わりについて</p>	<p>【無理に登校させてしまった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が経験なく理解してあげられなかった。行きたくないと言っていたのに何で行かせてしまったのかと自分を責めたことがある。 ・ 不登校当初は無理に学校に行かせようとしたこともあり、家庭内でも暴力・暴言があり、包丁を持ち出したり、「死ね」ということもあった。 ・ 低学年の時は留守番ができないので、無理やり学校に行かせており、今思うとかわいそうなことをした。 ・ 不登校当初は無理やり行かせようとしたが逆効果であった。今は心が元気であれば良いという考えで無理はさせない。 ・ 社会との繋がりを保とうと学校に無理やり行かせた時期もあったが、今はフリースクールがあれば良いと考え、外に出たくないという時には買物などをして気分転換している。 <p>【否定せず受け止めるようにした】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは理解しようと努めて、家だけは安心して過ごせるように考えを否定せず受け止めることを最優先にした。 ・ 市の主催する情報交換会をきっかけに、無理に学校に行かせるのではなく、本人の気持ち、本人の幸せを大事にすることが重要と気付かされた。 ・ 不登校経験者の体験談から、子供が気持ちを言葉にできるよう、自分自身(親)がまず子供を受け入れるよう変わる必要性を学んだ。 ・ やりたくないことは絶対やらず、自己肯定感が低いタイプなので、否定的な材料を増やさないう、好きなことをやらせるようにしている。 <p>【保護者自身の居場所を作った】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の心の居場所として、不登校の子を持つ保護者の会をインターネットで見つけて、参加した。 ・ 親の会という居場所があることは自分自身の安心にもつながっている。 <p>【仕事との両立が難しい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供が不安定だったため、仕事は休み、やめることも考えたが、SSW から続けた方が良いと言われた。 ・ 子供が不登校になってから、母は退職をした。 ・ 本当は働きたいが子供が不登校のため働けておらず、毎日昼食を作るのが負担である。学校へ復帰できるようにするため、給食費は払い続けている。不登校の親のブログやフリースクールのメルマガを読み安心を得ている。 <p>【約束事を決めている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就寝は 21:30 と決めている。

<p>3. 相談、支援の状況について</p>	<p>【教職員の電話・訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任は定期的にプリントを届けるなどの訪問してくれるほか、電話もかけてくる。 ・ 形式的な状況確認の電話はあまり意味がなかった。 ・ 担任の先生とは「スクリレ」で毎日連絡をとっている。週1回くらい電話で状況確認がある。学校へ戻そうとするような感じではなかった。 ・ 先生によっては毎週家庭訪問をしてくれ、子供と遊んでくれて有難かった。子供の意思を尊重してくれるのであれば有難い。 ・ 教職員が訪問してくれてよかったと感じたのは、子供の興味関心を引き出すようなコミュニケーションの取り方をしてくれたところである。 <p>【別室・保健室登校など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健室登校、別室登校を学校に要望したが、対応できないと断られた。 ・ 信頼できる養護教諭がいることで、保健室登校ができています。 ・ 特別支援学校を退職された、子供の様々な特性に詳しい方が校内適応指導教室に配属されたため、非常に心強かった。 ・ 校内適応指導教室は、校門の近くにあったため他の児童生徒と顔を合わさずに登校できる点が良かった。 ・ 保健室登校をしながら、少し教室に顔を出すなどして慣れ、元気になってきた。 <p>【専門職への相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SC のカウンセリングは小中学校とも受けたが、具体的な提案はなかった。利用できる日時が限定的でありあまり利用しなかった。 ・ 校長、教頭、SC に相談をした。悩みを吐き出せる場所となり助けられた。 ・ SSW の存在を知らなかった。 ・ 教育支援センターと繋がりを持ち、週1回教育相談所の心理士とも面談している。SSW とも同様の頻度で面談している。 <p>【民間フリースクール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近くにフリースクールがなかった。あるいは合いそうなところは遠くにしかなかった。 ・ フリースクールに通っていたが、活動内容等が合わず、通わなくなった。 ・ 何か困りごとや不安が生じた際、信頼できるフリースクールの職員に相談している。 ・ 1人ひとりにメンターが付くなど、個別に目が行き届く支援をしている、フリースクールに通い始めた。 <p>【自治体の教育支援センター等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SC の紹介で教育支援センターにつながり、そこで様々な選択肢について教えてもらえ安心した。 ・ 教育支援センターに行ってみたが、近い学年の子供がおらず馴染めなかった。 ・ 子供が人見知りであることもあり、また新しい場所に行くエネルギーもなく、嫌がったため利用していない。 <p>【医療機関の受診や福祉部門との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療内科に通い、服薬している。 ・ 発達障害があるため、放課後デイサービスを利用している。 <p>【オンラインの支援・活動の利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインでプログラミングをやっている。 ・ 民間でオンライン学習ができるプログラムを保護者自ら探した。タブレットを用いた学習は出席扱いになるという話だったが、学校へ書類を持っていくと不可であった。 <p>【保護者支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉県千葉市不登校児童生徒情報交換会がとても助かった。 ・ 親の会などの保護者ネットワークにつながったことで情報が得られた。
<p>4. 必要な相談、支援等について</p>	<p>【こんな場所・機会があると良い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一段階として、校内で保健室登校や別室登校ができるとよい。 ・ 民間施設はやはり心配があるので、行政が学校内に施設を作ってくれるのが望ましい。保護者への経済的支援にもなる。 ・ 勉強を重視した勉強に集中できる場所がほしい。 ・ 日中の居場所を確保したいが、家から遠いなどでなかなかいい場所が見つからない。日中の子供の居場所ができれば、親も仕事を続けられる。 ・ 平日だけの居場所だと土日に働いている場合困るため、土日に校舎を開放してくれるとよいのかもしれない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動に楽しんで参加しており、授業以外にも楽しい機会があることが分かるとよい。違う角度から様々な学びに関われるような学習機会があればよい。 ・ 地域で見ていくというのが理想なので、近所の方たちと世代を問わず交流があるとよい。 ・ 人と交流し、自己肯定感を高め、前向きになれるような場がほしいので、公民館での交流で歌を歌ったりするようなどところに一緒に入るのがよいのではないかと思う。 ・ 通級では体育がないが、体を動かせれば気持ちもすっきりするので運動できる場所がほしい。 ・ 将来、必要なスキルやコミュニケーション能力を学校以外の場所で学べたらよい。大人になった時に子供が困らないよう生きる術を学べる所があるとよい。 <p>【保護者への支援が必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親の会に参加したいし、手伝いたいと思う。 ・ 親の会があればよいが、場所、時間帯、曜日が難しい。 ・ 親のニーズを話す場も全然ないので、今回のような会話できる場を定期的に作ってほしい。 ・ 不登校の親の会があることは認識しているがどれがよいのかが分からず、自分の辛い体験を話すことから全体を知っている人のアドバイスを踏まえて最善の場所に行きたい。具体名を教えてほしいが、具体名の情報はもらえない。 <p>【こんな教職員がいると良い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援級の先生の対応にばらつきがある。支援級の人員配置には特に配慮していただきたい。 ・ 一人の先生に任せず、複数の先生で対応するようにしてほしい。 ・ 先生によって親身になってくれるかや、理解してくれるかに、だいぶ差があるように思う。 ・ やりたいことやらせてくれて、優しく、気軽に話しができ、一緒にお絵かきをする先生が望ましい。 ・ 不登校の対応の仕方や発達特性についてももう少し知識を持ってほしい。 ・ 不登校だったというような先生が一人でもいてくれたら子供も心強いと思う。 <p>【教員以外の人に相談したい・関わりたい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SC やSSWに相談できる頻度がもう少しあるとよいと思う。 ・ 親以外の第三者との関わりがあるとよい。 ・ 大人と関われる機会がほしい。 <p>【学校の体制面での課題意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学2年生になって担任が変わったとき、小学1年生にあったことについて全く引継ぎがされていなかった。 ・ 学校への連絡が負担である。連絡が可能な時間帯が限定されている。不登校の初期に学校を休む時、いちいち説明しなければならず、コミュニケーションツールの選択肢が不足している。 ・ 学校は送迎が必須と言われており、皆と違う登下校時間になると送迎している。仕事をしている身としては難しく、実際お迎えができないために行かない判断をせざるを得ない保護者もいる。 ・ フリーで入れる先生がいたらよいと思う。教育と福祉の連携が足りていないと思っており、個別のケアが進むとよい。 ・ 学校の全体主義的なところは変わるべきだ。あらかじめ決めた目標に寄せるような指導は難しくなるのではないかと思う。 <p>【行政相談窓口へのニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談機関の窓口開設時間が平日の日中に限られているのが問題だと思う。 ・ 子サポの 24 時間対応の相談窓口はありがたい。 ・ 先生だけでは対応が難しいと思うので、専門の相談窓口につないでくれればよい。 ・ 教育支援センターにも相談に行ったが、不登校相談が予約待ちになっていたり、なかなかニーズに応じてくれない。 <p>【金銭面の支援が必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校でも、PTA 会費、給食費、教材費等出費がかさむ。タブレット代の支援金があると助かる。 ・ 東京のフリースクールでは、令和 6 年度からは助成が決定し、フリースクールの勉強会や活動充実の補助金として 500 万支給されるので千葉県も力を入れてほしい。 ・ 不登校の子を見ながら働くのは大変で、家事支援などのサポートもあった方がよい。
--	---

	<p>【情報提供を強化してほしい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報にたどり着けない。例えば病院の一覧をもらっても、選択肢がありすぎてどこに行けばよいか分からない。 ・ 学校から情報をもらえない。 ・ 不登校になった場合、まず親はどうしたらよいか知りたいのでリーフレット、フリースクールの情報等があるとよい。入学式のパンフレット等も保健室の前に置いてあるとよいと思う。世田谷区のパンフレットなど参考になる。 ・ 自分から動かなければ支援を得られない仕組みでは、不登校になったときにエネルギーがなくて自分から動くのはしんどい。 ・ 公的な教育支援センターにつながっても、毎度一から話をしていく必要がある。使える情報が提供されず、徒労感があり、情報連携も課題のひとつだろう。 <p>【不登校への考え方の転換が必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校は通うものという意識が先生にも子供にもあるが、無理をさせるのは逆効果であった。 ・ 祖父母や近所の方などが「なぜ行かないのか？」と聞いてくることもある。道を歩いている途中で「学校はどうしたの？」とか大人から聞かれることもあるという。 ・ 遅刻して登校するときは親の付き添いが必要だが、出勤までに支度ができないと仕事に遅れてしまう。今の会社は理解があるからよいが、不登校の子がいる家庭への理解が深まってほしい。 ・ 体調を崩している様子は、SOS だと認識してほしい。熱が出るとわかりやすいので帰れるが、そうでないと無理をさせられることもある。
<p>5. ICT について</p>	<p>【実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の先生の授業の黒板が映るようになっており、クラスの雰囲気が分からないのがよい点なのかもしれないが、どこのページで何をしているのかが分からない授業もあり、飽きてくる場面もあるように思う。 ・ リアルタイムだと配信がとぎれるなどの不具合もあり、見られないことも多い。アーカイブにしてほしい。 ・ 子供が、クラスメイトが画面に映ることや、自分がオンライン授業を受けていることが周りに分かってしまうことを嫌がった。 ・ 元気が無い時は、オンラインでも難しい。 ・ タブレットはせっかくあるのに、活用されておらずもったいない。あるいは、持ち帰りが認められておらずほとんど活用できていない。 <p>【ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン授業を充実するのはよいが、不登校になった時点まで遡ってフォローアップしてもらう必要がある。 ・ 学校は授業のライブ配信よりもオンライン向けに加工した方がよく、民間の塾講師のような解説があればよい。 ・ 自主的に学ぶかは分からないので、アーカイブよりもリアルタイム配信の方がまだ受けるかもしれない。 ・ 授業のライブ配信も録画配信もニーズはあると思うので選択ができればよい。 ・ 全体授業の中に入るよりは、不登校の子だけ参加できる授業があるとよい。 <p>【SNS 等による相談について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共働きだと日中に教員に相談することは難しいので、SNS等を活用してオンラインで相談できたらありがたい。 ・ 不登校専門で LINE 相談があるとよい。こどもは SOS があるが、不登校特化はないのではないかと思う。 ・ 会話のボイスチャットもよいと思うがエネルギーがない時に顔を出すのは辛い。 <p>【メタバースについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面で人と交流することが大事なので、メタバースにはあまり関心がない。 ・ 教室に自分のアバターを通わせる等に、子供は興味がありそうだ。 ・ メタバースの利用は子供が興味を持ってそうであり、生活リズムを整えるのにも役立つのではないか。匿名でも相談や話す事ができたらよい。親に言えない事、相手が分からないからこそ言える事もあるので、少しでも吐き出すことができればよい。 ・ 顔を出せと言われると少しハードルが高くて、アバターであればコミュニケーションが取れるかもしれない。 <p>【学校の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームを学校に持ってきてよいとすれば友達との交流のツールとなる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健室登校をしているが Wi-Fi が通っていないため、Teams に参加ができない。 ・ オンラインで学習した場合等にも出席・評価に反映される仕組みがあると良い。
6. その他	<p>【現在不安なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校になっても、学習することは大切だと思ってるので、それが確保できるようにしたい。結局教育支援センターに行っても、自分で取り組む学習方法には限界があり、中学くらいから学習方法について不安になると思う。 ・ 子供がそのまま引きこもってしまうのではないかという不安と中学校へ進めなくなってしまうのではないかという不安がある。 ・ 子供の社会との関わりがなくなることが一番不安だ。 ・ こどもが勉強する意味を分かっておらず、将来の夢を見つけるチャンスがない。 <p>【自治体への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者の人材確保が重要だ。 ・ 支援の質が玉石混交となっており、質の担保も課題だろう。本来公的なところが精査すべきである。